

関東ふれあいの道(茨城)⑪筑波山巡りから旧参道へのみち

2021年12月1日池内淑皓

2021年6月1日(火)晴れ。コースは筑波山の頂上御幸ヶ原を出発し、遙か昔から歩かれてきた「つくば道」(日本の道100選に選ばれている)を歩き、門前町として栄えた北条の町に出る。

関東ふれあいの道は北条集落を通らず、直接古代官衙跡遺跡に向かうのであるが、江戸時代建立されたつくば道の大きな石柱道標を見学してから、平沢集落にある古代筑波郡官衙跡の遺跡を見学して、バスで土浦に戻った。



「関東ふれあいの道⑪筑波山頂めぐりから旧参道へのみち」案内板(自然歩道連絡協議会)



筑波山から「つくば道」概念図 (つくば観光パンフレット)



御幸ヶ原でお弁当を食べて、12時出発



御幸ヶ原コースは一般向けハイキングコースで、A-8の表示に従って歩く



いきなり急な木道で手摺もないから、膝の弱い私は、蟹(かに)歩きで下る



800mの御幸ヶ原から 300mの筑波山神社まで 500mを一気に下るのだ



原生林の中を縫うように下る



筑波山一帯は、神領として守られてきたから、手つかずの自然が残されている



万葉時代から歌枕の地に到着、男女川(みなのがわ)源流を通る



私も陽成院になったつもりで、一枚パチリ



"筑波嶺の 嶺より落つる男女川 恋ぞ積もりて 淵となりぬる"

陽成院(貞観 18 年(876)9 歳で父清和天皇から譲位し、17 歳で上皇となる。天曆 3 年(949)73 歳で没した)



「筑波山神社」崇神天皇の御代、物部氏の一族筑波命が筑波国造に命じられ、社を勧請した。
江戸時代、幕府は筑波山神社が、江戸城の鬼門に当たるため、手厚く庇護したと言う



ご神体は筑波山頂で、頂上の男体山はイザナギミコ、女体山はイザナミコを祀り、古代山岳信仰の形式が維持されている。ここは山のご神体を拝む拝殿となっている(奈良大神神社と同じ)



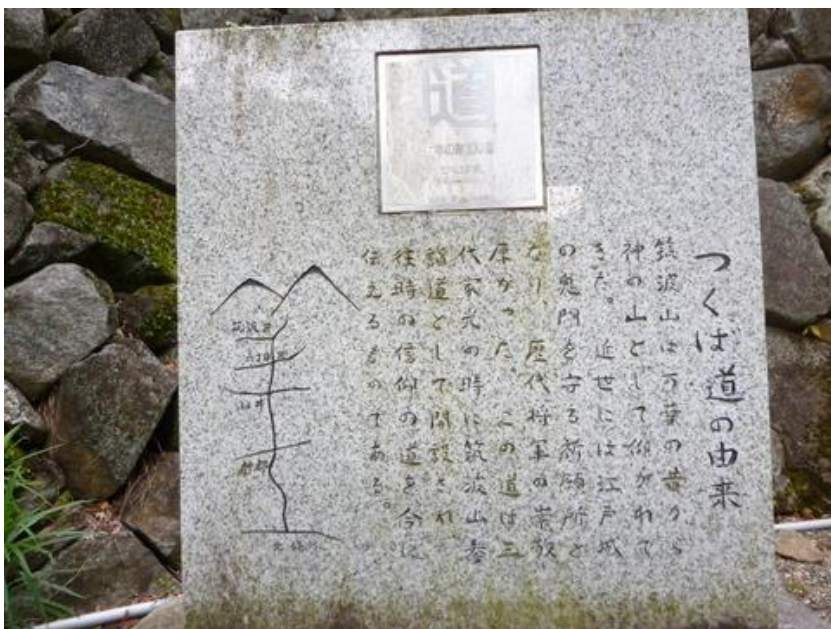
「隋神門」寛永 10 年(1633)徳川家光寄進と伝える



「大杉」 樹齢 800 年、樹高 32m。市天然記念物



「つくば道」 神社の門前から遥か麓の北条に下る道を、特につくば道と言う



つくば道は、三代将軍家光が参詣道として開設した。本来は土浦まで 20kmある(日本の道 100 選)



昭和 14 年建てられた筑波郵便局旧庁舎を、平成 20 年ここに移築して展示している



昔は急な階段であったが、車が通れるように斜面に変えた。



所どころ昔風な遺構が散見出来、風情ある道として維持されている



「六丁目の鳥居」一の鳥居とも言われる。宝暦9年(1759)造立の石鳥居。昔はここから筑波山神社まで石段であった



麓に下ると傾斜も緩くなり、臼井の集落を通り抜ける



振り返ると頂上の雲が取れて、筑波山が良く見える(左男体山)



「神郡集落」(かngoおり)筑波山の神々が集まったと言われる、古い集落がつくば道の伝統を守っている



路地の至る所に案内があるので迷うことは無い、石柱も道標だが文字が読めない



北条の集落に出ると、寛政 10 年(1798)建立のつくば道石柱の道標が立つ



この先 20 分程の平沢集落に、古代筑波郡の官衙遺跡があるので見に行く



奈良・平安時代常陸国筑波郡の郡役所跡である。1975 年発掘し 1980 年国指定史跡になった。
大型の高床式倉庫が多数並び、大きな環濠で囲んでいたと云う。



右校倉造り、中央双倉の倉庫群、税として納められた稲、麻布等をここに収納し、都まで運んだ。
近くには新治、真壁、河内、信太の官衙があったと云う。



土浦行きのバスは、平沢官衙入口バス停から、休日は一時間に2本出ている



今日のゴールは JR 常磐線の土浦駅 17 時 10 分発に乗れた

[参考タイム] 筑波山御幸ヶ原(12:05)→筑波山神社(13:45-13:55)→北条(15:00-15:15)→
平沢官衙遺跡(15:40-16:21)→土浦駅(17:00-17:10)

この項完

「関東ふれあいの道(茨城)⑫果樹園のみち」に続く